CDFW/SL VPNトンネルの既知の制限の理解

内容

はじめに

このドキュメントでは、Cisco Umbrellaクラウド配信ファイアウォール(CDFW)/SL VPNトンネルの既知の制限事項について説明します。

概要

Umbrellaのクラウド配信ファイアウォール(CDFW)は、各サイトで物理アプライアンスまたは仮想アプライアンスの導入、メンテナンス、アップグレードを行うことなく、ファイアウォールサービスを提供します。UmbrellaのCDFWは、すべてのブランチオフィスのインターネットトラフィックの可視性と制御も提供します。ただし、CDFWにはいくつかの既知の制限事項があります。

説明

- CDFWトンネルを介したIPSECトラフィックはサポートされませんが、CDFWを介したSSL/TLSトンネルはサポートされます。SSL over IPSecはCDFWでサポートされていますが、UmbrellaはそれをSWGに転送し、それをドロップします。Umbrellaは、管理者が宛先IPアドレスでSWGをバイパスできる機能を構築することを計画しています。
- 各トンネルのスループットは、トンネルあたり約250 Mbpsに制限されます。
- IPフラグメンテーションはCDFWではサポートされていません。
- CDFWでのSWG PACファイルの使用はサポートされていません。
- TCP、UDP、およびICMPのみがサポートされます。その他のパケットはドロップされます。*
  * ICMPのtracerouteは、Umbrellaインフラストラクチャを通じて完全には表示されません。
- NATは、ピン穴あけ機能または着信（ブランチへの）ポートをサポートしていません。そのため、アクティブFTPはサポートされず、パッシブFTPだけがサポートされます。また、着信ポートを静的に開く機能もありません。
- 現在サポートされている子SAは1つだけです。
- パスMTUディスカバリ(PMTUD)は、CDFWトンネルではサポートされていません。
- 複数のデバイスが同じ宛先に送信している場合、pingをドロップできます。

翻訳について
シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。